

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 宇都宮市

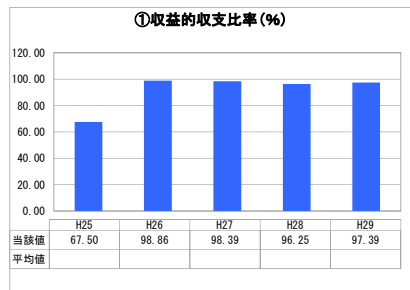
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.69	60.76	4,168

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
522,938	416.85	1,254.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
14,006	6.33	2,212.64

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



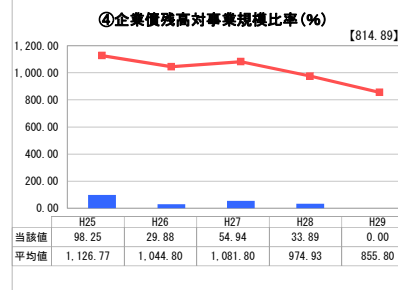
「単年度の収支」



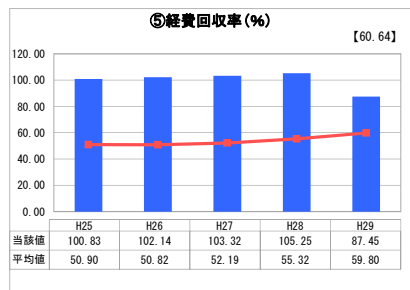
「累積欠損」



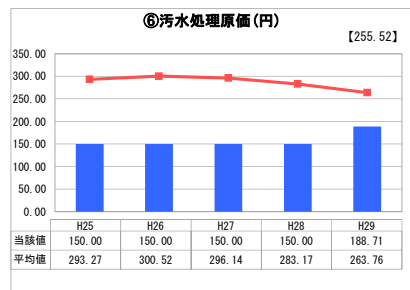
「支払能力」



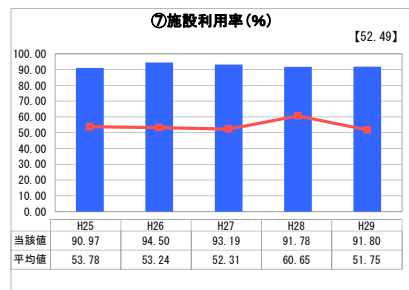
「債務残高」



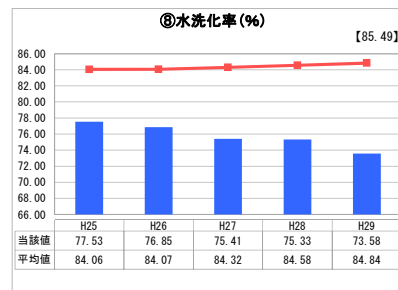
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

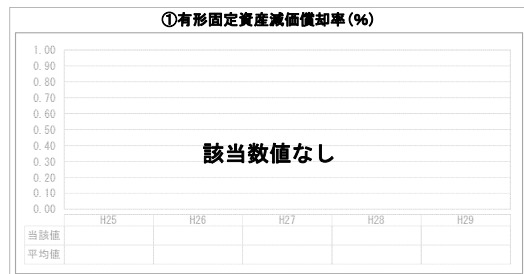


「施設の効率性」

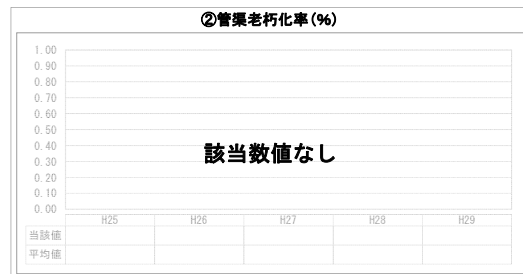


「使用料対象の捕捉」

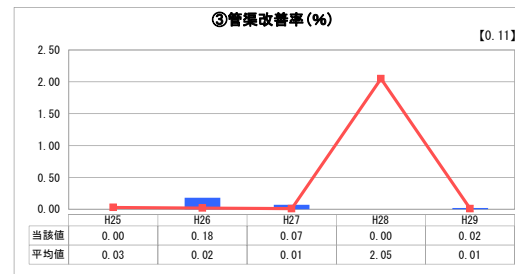
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①収益的収支比率」については、使用料収入の増などにより、前年度と比較して改善しており、100%に近い数値となっていることから、概ね総収益で総費用と地方債償還金を賄えている。なお、H26は市債の繰上償還のため、一時的に数値が低くなっている。

「⑤経費回収率」については、H28までは上昇傾向にあったが、H29は減少し100%を下回っており、汚水処理費を使用料で賄っていない状況である。これは、H29から5か年計画で、下水道管路台帳を電子化する取組を開始したことにより、一時的に汚水処理費が増加したためである。また、「⑥汚水処理原価」についても、150円を横ばいで推移していたが、H29から増加しており、これについては、

「⑦施設利用率」については、高い数値となっており、施設の利用状況や施設規模が適切な状態となっている。

「⑧水洗化率」については、世帯当たり人口の減少に伴い、処理区域内人口、水洗便所設置済人口ともに減少し、水洗化率も減少した。今後も、効果的な接続促進に取り組み、水洗化率の向上を図っていく。

以上のことから、本市の農業集落排水事業は、効率化のために実施している管路台帳整備に要する費用の影響はあったものの、一時的なものであるため、健全な経営状況を継続できていると評価することができる。今後も、有収率や水洗化率の向上を図り、より一層健全な事業運営を行っていく。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を超過した管渠がなく、老朽化の進んだ管渠が比較的少ないため、管渠の劣化状況により必要に応じて改築・修繕工事を実施していることから、「③管渠改善率」は低い値となっている。なお、H26は管路改修工事を行ったため、一時的に数値が高くなっている。

全体総括

本市は、比較的供用開始後年数の短い施設が多く、老朽化の進んだ管渠が少ないことなどから、全体的に健全な経営状況にあるが、将来的に、施設の老朽化に伴う建設改良費の増加が見込まれる。

今後は、施設を効率的に維持管理するため、施設の機能保全に必要な改築・修繕の計画的な実施や、公共下水道への接続による施設の統廃合などを推進していく。

また、経営の健全化に取り組めるよう、経営状況を的確に把握するため、企業会計への移行に向けた固定資産調査を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。